

収支状況の概要

平成30年度は、入院患者数、外来患者数ともに減少し、それぞれ減収となりましたが、会計制度の見直しによって、平成29年度に生じた不良債務を解消するための一般会計繰入金6386万9千円の増額により、黒字決算となりました。

また、平成30年度決算で4363万3千円の純利益を計上したことから、累積欠損金(内部積立金不足額)については、同額の改善を図ることができ、年度末で6億5354万8千円に縮小することができました。

医師および医療スタッフの確保に向けて

病院経営にとって、常勤医師はもとより、看護師をはじめとする医療技術員の体制整備は、病院運営と経営の根幹をなすものです。

医師確保の問題は、町立厚岸病院のみならず全国的に改善が進まず、特に、へき地の自治体病院や診療所において共通した重要課題で、非常に厳しい状況が続いています。

医療や福祉はマンパワーとチームワークが大切です。町立厚岸病院が担う地域医療の確保や24時間の救急

医療を維持するため、北海道などとも連携し、常勤医師の招へいと医療技術員の確保に全力で努めていきます。

老健「ここみ」の運用状況

医療と高齢者福祉に対応した介護老人保健施設「ここみ」(23床)は、町立厚岸病院と特別養護老人ホームの中間的な役割を持つ施設で、在宅で自立した生活ができるよう、リハビリを中心に食事や入浴などのサービスを受けながら、カラオケやゲームなどレクリエーションを楽しんだり、入所者同士が交流しながら、自

立した生活を支援する役割を担っています。

平成30年度決算では、収支差引522万5千円の黒字で、利用状況では、1日当たりの平均入所者数が20・0人の利用となりました。

救急外来の適正な利用のお願い

町立厚岸病院では、24時間の救急医療体制を整備し、救急患者の受け入れを行っていますが、これは突発的な症状(激しい頭痛、腹痛、胸痛、外傷等)で、**緊急処置の必要な患者さんの治療**を行うものです。

しかし、「**コンビニ受診**」と呼ばれる緊急性の低い軽症患者の受診もまだまだ見受けられます。救急外来は24時間いつでも受診できる便利な夜間診療ではなく、緊急時に対応するためのものです。コンビニ受診が増えると、重症患者への対応に影響が出たり、医師の負担が増して疲弊にもつながります。できるだけ診療時間内に受診をお願いします。



■補助金と財源内訳の推移

(単位:千円)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
補助金	494,950	521,564	585,433
企業債元利・建設改良	197,770	198,488	193,218
救急医療	110,353	115,895	116,768
不採算地区病院対策	81,768	90,976	204,814
その他	105,059	116,205	70,633
財源内訳	494,950	521,564	585,433
法令基準に基づく国からの交付金額	273,602	259,716	274,041
法令基準に基づく町からの補助金額	99,636	127,241	229,252
町の施策に基づく補助金額	121,712	134,607	82,140

※『法令基準に基づく国からの交付金額』は、国から示された数値を記載しています

■病院収支と累積欠損金の状況

(単位:千円)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
病院事業収益	1,236,670	1,264,908	1,239,851
入院収益	293,595	309,665	251,806
(入院患者数)	(11,838人)	(12,522人)	(10,061人)
外来収益	382,531	386,849	363,688
(外来患者数)	(49,753人)	(48,487人)	(45,399人)
他会計補助金	343,618	364,818	429,031
特別利益			
その他	216,926	203,576	195,326
病院事業費用	1,200,848	1,219,790	1,196,217
給与費	705,806	707,698	700,427
材料費	126,778	127,097	117,553
経費	199,436	209,471	202,116
企業債利息他	46,872	41,986	36,921
特別損失			
その他	121,956	133,538	139,200
当年度純利益	35,822	45,118	43,634
その他未処分利益剰余金変動額			
減債積立金処分額	5,800		
累積欠損金	742,300	697,182	653,548
うち不良債務		18,955	

